

2 研究の実際

(9) 授業実践(中学 1 年)

題材

「音楽の特徴を背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて聴き、よさや美しさを味わおう」

教材

「春」「冬」(「和声と創意の試み」第 1 集「四季」から) ヴィヴァルディ作曲

題材について

本題材は、音楽をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞する能力を育てることをねらいとしています。音楽の背景に目を向けることは、音楽を形づくっている要素や構造、曲想をとらえるために有効だと考えられます。音楽を背景と関連させながら音楽の特徴をとらえ、それを言葉で交流する活動を通して音楽のよさや美しさを味わって聴くことにつなげたいと考えました。学習指導要領の内容は、「B 鑑賞」(1) 鑑賞の事項ア、イ(第 1 学年)、〔共通事項〕は音色、旋律、テクスチャ、形式を取り扱いました。

題材の指導目標

「春」「冬」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の背景となるバロックの音楽や他の芸術との関わりを感じ取って聴き、主体的に解釈したり価値を考えたりしてよさや美しさを味わう。

題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチャ、形式や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②「春」の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ②「四季」より「春」や「冬」の音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、解釈したり価値を考えたりし、よさや美しさを味わって聴いている。

本題材で位置付ける〔共通事項〕

〔共通事項〕	本題材における具体の姿
ア	弦楽合奏とチェンバロの音色、独奏ヴァイオリンの音色
音色	
旋律	「春」 第 1 楽章…ホ長調、明朗で躍動的な旋律、鳥の鳴き声や雷鳴を表現している旋律、装飾音符がついた華やかな旋律 第 2 楽章…嬰ハ短調、眠る山羊飼い・木の葉のささやき・犬の吠える声の描写 第 3 楽章…ホ長調、明るく華やかな田園的な踊りの描写 「冬」第 1 楽章 へ短調、同音の連続で緊張感がある旋律、吹きつける風の描写
テクスチャ	独奏・重奏と合奏、通奏低音と旋律の関係

	形式	急-緩-急の3楽章形式、急速楽章のリトルネッロ形式
イ	Allegro	急速楽章の速さ、緩徐楽章Largoとの対比

題材の指導計画と評価計画(全3時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	◆評価規準	評価方法
第1時	<p>◆弦楽合奏の音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る学習に主体的に取り組む。</p> <p>○「春」の音楽を形づくっている要素のうち、音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</p> <p>・「春」の第1楽章を聴き、感じ取ったこと等を自由に話し合い、発表する。(発言の中から、音色、旋律、テクスチュアに関するものを取り上げて、板書して整理する。)</p> <p>・Aを聴き、2種類の旋律が出てくることを知り、実際に歌ってそれぞれの旋律の動きを確認する。</p> <p>・音楽を聴き取りながら、音色、旋律、テクスチュアの意味などを教師の説明を聞いて理解するとともに、「どのような感じの音楽か」「それは音楽のどんなどころから思ったのか」をワークシートに書き、発表し合う。</p> <p>・B、DをAと比較しながら聴き、Aとの違いを意識してワークシートに書いて発表し合う。</p> <p>○ソネットの内容、リトルネッロ形式を知る。</p> <p>・音楽の各部分にソネットが付けられていることを知り、情景を想像する。</p> <p>・Aの旋律と同じような旋律が繰り返し演奏されることを意識しながら「春」の第1楽章を通して聴く。</p> <p>・リトルネッロ形式を知る。</p> <p>○演奏している楽器を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※A～Eはソネットの各部分を表す。 A春がやって来た。B小鳥は楽しい歌で、春を歓迎する。C泉はそよ風に誘われ、ささやき流れていく。D黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる。E嵐がやむと、小鳥はまた歌い始める。</p> </div>	<p>◆「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: center;">【関-①】</p> <p>◆「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取っている。</p> <p style="text-align: center;">【鑑-①】</p>	<p>観察 ワークシート の記述</p> <p>ワークシート の記述</p>
	第2時	<p>◆曲の背景と音楽の関わりに関心を持ち、曲の特徴を捉える学習に主体的に取り組む。</p> <p>○第1楽章との比較を手掛かりにして第2楽章、第3楽章を聴き、それぞれの音楽の特徴を考える。</p> <p>・第2楽章を聴き、長調と短調の違い、独奏の旋律が全体にわたることなど、気付いたことを話し合う。</p> <p>・第3楽章を聴き、第1楽章と同じリトルネッロ形式でできていることなど、気付いたことを話し合う。</p> <p>○バロックの時代背景や歴史、文化(建築様式、絵画等)を知る。</p>	<p>◆「春」の特徴とその背景となる文化・歴史や他の</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヴィヴァルディを中心に、キーワードを手掛かりにしてバロックの特徴をまとめる。 ○ 曲の背景と曲想がどのように関わっているか考える。 ・ 曲の背景と曲想の関わりをグループで話し合う。 	<p>芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関-②】</p>	<p>トの記述</p>
<p>第3時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「冬」を聴き、「春」の学習を振り返りながら音楽の特徴を捉え、背景と関連付けながら紹介文を書き、よさや美しさを味わって聴く。 ○ 「春」との比較を手掛かりにして「冬」を聴き、音楽の特徴を考える。 ・ 曲名を伏せて「冬」を聴き、どんな情景を表しているか想像する。 ・ 「春」と似ているところと違うところを自由に出し合う。 ・ グループで似ている理由、違う理由を話し合う。 ○ イタリアの気候や四季について知る。 ・ 音色、旋律からイタリアの四季を想像させる。 ○ 学習を振り返りながら、ヴィヴァルディになったつもりで紹介文を書く。 ・ 「春」と「冬」の気に入ったところとその理由を入れる。 ・ 音色、旋律、テクスチュア、形式の言葉を用いる。 ・ 曲の背景との関連を考えながら、曲の紹介をする。 ○ 紹介文を基に意見交換する。 ○ 「春」の第1楽章を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「春」や「冬」の音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、解釈したり価値を考えたりし、よさや美しさを味わって聴いている。 <p style="text-align: right;">【鑑-②】</p>	<p>ワークシートの記述</p>

ア 1時目（教材「春」）

指導目標

「春」の特徴と曲想との関わりを感じ取って聴くことができるようにする。

評価規準

- ・ 「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度)
- ・ 「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きを生み出す特質や雰囲気を感じ受している。 (鑑賞の能力)


聴覚と視覚を関わらせて音楽を知覚・感受する場面

「春」第1楽章の形式を知覚させる際、A～Eの5種類のカードを準備し、黒板に貼る。音楽の進行に合わせ、カードを指し示し、Aが何回も繰り返されることを知覚させるようにする。

交流場面を工夫した場面

「春」第1楽章のAの部分の聴き、思い浮かぶ情景とその理由をワークシートに書き、まずペアで意見を交流させる。意見を出しやすいペアで、互いに意見を出し合った後、グループで意見を交流させ、より多様な意見に触れさせる。

授業の展開

	学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法・資料
導入	1 「春」で想像する情景を発表し合う。 2 本時のめあてを確認する。	・「春」の様々な情景を自由に想像させた。	
展開	3 「春」の第1楽章を聴き、感じ取ったことを発表する。 4 Aを聴き、思い浮かぶ情景とその理由を考える。 5 B、DをAと比較しながら聴き、Aとの違いを意識してワークシートに書いて発表し合う。 6 音楽の各部分にソネットが付けられていることを知り、情景を想像する。 7 「春」の第1楽章を通して聴く。 8 リトルネッコ形式を知る。	・発言の中から、音色、旋律、テクスチュアに関するものを取り上げて、板書して整理した。 ・「どのような情景が思い浮かぶか」「それは音楽のどんなところからか」をワークシートに書かせ、ペアで交流させた。 ・知覚・感受したことを発表させた。 ・音色、旋律、テクスチュアについて言葉の説明を入れながら進めた。小学校の学習を想起させながら説明した。 ・「どのような感じの音楽か」「それは音楽のどんなところからか」をワークシートに書かせ、グループで話し合わせた。 ・新しい気付きは、ワークシートに加筆させ、知覚・感受を深めさせた。 ・教科書のソネットを紹介し、情景を想像させた。 A～Eはソネットの各部分を表す。 A春がやって来た。B小鳥は楽しい歌で、春を歓迎する。C泉はそよ風に誘われ、ささやき流れていく。D黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる。E嵐がやむと、小鳥はまた歌い始める。 ・A～Eのカードを黒板に貼り、音楽の進行に合わせて、指し示した。 ・Aの旋律と同じような旋律が繰り返し演奏されることを意識しながら聴かせた。 ・カードを正しい順に並び替え、Aが何度も出てくることを確認した。 ・リトルネッコ形式について説明した。	◆「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュアと曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】 <観察、ワークシートの記述> おおむね満足(B)と判断する目安 ・音楽的な特徴と曲想との関わりについて自ら発言したり、他者の発言を聞き、反応したりしている。 ・ワークシートに感じ取った内容を記述し、新しい気付きを加筆している。 <Cへの支援> ・友達の発表や記述を参考にさせる。 ◆「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。【鑑-①】 <ワークシートの記述> おおむね満足(B)と判断する目安 ・Aの音楽についてワークシート①②についての内容を書いている。さらにBDについてそれぞれの音楽についての内容を記述している。 <Cへの支援> ・「音楽を表すいろいろな言葉」から自分が感じたことに近い言葉を探して書くように指示する。 進行に合わせてカードで示す 
まとめ	9 次時は「春」の全曲を聴くことを知る。		

イ 2時目（教材「春」）

指導目標

「四季」より「春」の音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、解釈したり価値を考えたりし、よさや美しさを味わって鑑賞できるようにする。

評価規準

「春」の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。
(音楽への関心・意欲・態度)


聴覚と視覚を関わらせて音楽を知覚・感受する場面

「春」第2楽章のテクスチュアを知覚させる際、スコアを電子黒板で拡大して提示し、楽譜を示しながらそれぞれのパートの演奏を聴かせる。

交流場면을工夫した場面

音楽によるコミュニケーションの充実を図るため、曲の背景と曲想との関わりについてグループで話し合いをする際、学習用PCで曲を聴き、示しながら意見を交流させる。学習用PCは聴きたい箇所から何度でも再生できるので、話し合い活動のツールとして活用しやすいと考える。

授業の展開

	学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法・資料
導入	1 前時の学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 「春」の第1楽章を聴き、前時の学習を想起させた。 独奏と合奏が交互に現れること、リトルネッロ形式を確認した。 第2楽章、第3楽章があることを伝え、本時は全曲を聴き、曲が作られた背景と関わらせて音楽を捉えることを伝えた。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">曲の背景と関わらせて「春」の特徴をつかもう</div>			
展開	3 第1楽章との比較を手掛かりにして第2楽章、第3楽章を聴き、それぞれの音楽の特徴を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 音色、旋律、テクスチュアに着目して第1楽章と比較しながら聴かせた。 ワークシートに自分が捉えたそれぞれの音楽の特徴を記入するように指示した。 書けていない生徒には、「音楽を表すいろいろな言葉」から自分が感じたことに近い言葉を探して書くように伝えた。 ペアで意見を交流させた。 ワークシートに書いたことを発表させ、板書し、整理した。 第2楽章は、長調と短調の違い、独奏の旋律が全体に渡ること等に気付かせ 	知覚と感受に分けてワークシートに記述 

積したり価値を考えたりし、よさや美しさを味わって聴いている。

(鑑賞の能力)

聴覚と視覚を関わらせて音楽を知覚・感受する場面

「春」第 3 楽章の形式を知覚させる際、「独奏」「合奏」のカードを並び替えながらリトルネッロ形式を捉えさせる。

交流場면을工夫した場面

「冬」を聴かせる際、「春」との比較を手掛かりにしてグループで話し合いをさせる。ここでも学習用 PC で曲を聴き、示しながら、意見を交流させる。

授業の展開

	学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法・資料
導入	1 前時の振り返りをする。 2 本時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートを見ながら、前時の学習を想起させた。 バロックの時代やヴィヴァルディの生涯について確認した。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ヴィヴァルディの音楽の特徴やよさを紹介しよう </div>		
展開	3 「冬」の第 1 楽章を聴き、感じたことを発表する。 4 「冬」の第 1 楽章を聴き、特徴をワークシートに記入する。 ・「春」と似ているところと違うところ 5 グループで似ている理由、違う理由を話し合う。 6 イタリアの気候や四季について知る。 7 ヴィヴァルディになったつもりで「春」「冬」の紹介文を書く。 8 意見交換をする。	<ul style="list-style-type: none"> 曲名を伏せて聴かせ、どのような情景を表しているか想像させた。 曲の特徴や雰囲気を感じ取らせた。 「春」と比較しながら聴かせた。 知覚したことと感受したことを分けて記入させた。 音色、旋律、リズム、テクスチャに着目しながら話し合いをさせた。 グループで曲を流し、確認しながら話し合いをさせた。 教科書や提示資料でイタリアの説明をし、イタリアの四季を想像させた。 音色、旋律でどのように表現されているか考えさせた。 これまでの学習を振り返りながら紹介文を書くように伝えた。 気に入ったところとその理由を入れた。理由は、音色、旋律、テクスチャ、形式の言葉を用いて書かせた。 生活や気候、時代背景を入れさせた。 紹介文を交流させ、様々な解釈や価値に触れさせた。 	◆「春」や「冬」の音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。【鑑-②】 <ワークシートの記述>

おおむね満足 (B) と判断する目安

- 音楽の背景と音楽的な特徴と関わらせて、自分の考えをワークシートに内容を記述している。
- (C) への支援
- 「春」で記入したワークシートを参考にさせる。

ま と め	9 「春」の第 1 楽章を 聴いて、学習の振り返 りをする。	・新しい発見があったら紹介文に加筆さ せた。 ・学習が深まったかどうか自己評価させ た。	
-------------	--------------------------------------	---	--